

「道路政策の質の向上に資する技術研究開発」(平成17、18年度採択)

中間評価結果(公表用)

番号	研究課題名	研究代表者	評価
	社会心理学に基づくコミュニケーション型TDMに関する研究開発	東京工業大学大学院 教授 藤井 聡	A
<p>< 研究継続の妥当性評価 ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 研究の進捗状況、研究成果の見通しはともに良好であり、計画通り研究を継続することが妥当である。 <p>< 今後の研究計画・方法への指摘事項 ></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 実施事例を増やしMM(モビリティ・マネジメント)の技術的・実務的知見を集約し、成果を「手引き」として取りまとめて頂きたい。また、MMを全国展開する際の留意点や、MMの有効性の制約要因(都市規模、交通特性(公共交通のネットワーク密度等)、気象特性(地理的特性)等)について整理・分析し、「手引き」に反映して頂きたい。 2. MMは、社会的・公共的な視点から人々の行動変化を促す活動と理解しているが、地域の中でMM以外の他の同種の活動(例えば河川の環境改善ボランティアや道守活動)と十分な連携をとることにより、公共地域活動に昇華させることが可能であると考えられるため、こうした点も視野に入れて研究を進めて頂きたい。 <ul style="list-style-type: none"> ・ MMの手法の持つ社会的な意味と限界性さらには危険性など、ネガティブな側面を含めた基礎的な側面について、分析ととりまとめをお願いしたい。 			